

3rd Annual N.E.A.R. Language Education Conference 第3回北東アジア言語教育学会

Conference Preview - Presentations

Moodle を活用したブレンディッドラーニングモデルの構築とその有効性—上 級日本語読解 BL モデルの改良 その 2—

篠崎大司, 別府大学

Room 101, 3:30-4:10 pm

0. はじめに

本研究は、篠崎(2009,2010)をうけ、中上級学習者に対する日本語能力試験 N1 読解対策授業として構築してきたブレンディッドラーニング（以下、BL）モデルにさらなる改良を加え、アンケートによる学習者満足度調査とコース前後に行った試験結果による教育効果の測定によって、BL 改良モデルの有効性を検証するものである。

国内の日本語教育機関で広く行われている直接法による対面式授業スタイルでは、投資収益率に限界があること、学習者全員に対する均一かつ密度の濃い教育サービス提供に限界があること、学習データに基づいた客観的かつ即時的なフィードバックが困難、といった問題点がある。近年、こうした問題を解消すべく日本語教育においてオンラインとオフラインを融合した BL への取り組みが徐々に注目されるようになってきた。

本研究では、Moodle をベースに過去 6 年分の日本語能力試験 1・2 級問題に動画解説やオリジナル問題を加えた e コンテンツ（篠崎(2009,2010)）にさらなる改良を加え BL 授業を実施し、その有効性を検証した。

1. コンテンツの改良と授業実践

1. 1. 改良点

(1) 情報検索問題の追加

情報検索問題を、動画コンテンツが比較的短い 12 の課に対し 1 題 3 問ずつ追加した。

(2) 「ちょっと気になるおもしろサイト集」の改良

これは日本語を読む楽しさを体感させ、学習に対する肯定的態度を醸成することを目的としている。従来その授業で扱うサイトのみを第 1 層に表示し、過去に紹介したものは第 2 層にストックしていたが、授業で紹介したものを各課の第 1 層に表示し閲覧しやすく改良した。

NEAR

北東アジア言語教育学会
Language Education Conference

3rd Annual N.E.A.R. Language Education Conference

第3回北東アジア言語教育学会

1. 2. 授業実践

下記要領で授業を行った。

- (1) 期間：2010年9月27日～2011年1月20日。週2コマ。全29コマ。
- (2) 学習者：49名（うち中国39名、韓国5名、台湾5名）
- (3) 学習者の日本語レベル：日能試N2程度。
- (4) 学習目標：日能試N1レベルの読解力の養成。
- (5) 授業形態：PC教室での一斉授業。

2. 有効性の検証結果

検証の結果、アンケートによる学習者満足度調査では、総合評価において91.8%の学習者が改良モデルに肯定的であった。また、日本語能力試験1級過去問を使った教育効果測定では、正答率の平均が47.3ポイントから66.4ポイントと19.1ポイント、伸び率にして40.4%の向上が見られた。改良前の篠崎(2010)と比較すると総合評価で12.5%、教育効果測定による伸び率も5.9%上回っている。これらの結果から、改良モデルの有効性が確認できた。

NEAR

北東アジア言語教育学会
Language Education Conference